

(事後評価)

挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：お茶の水女子大学（総括責任者：羽入 佐和子）

プロジェクトの概要

学長、役員を中心に「お茶大アカデミック・プロダクション」を組織し、メンター制によって新分野に挑戦する自立的若手研究者を育成する。国際公募によって 6 名程度の特任助教を採用する。スタートアップのための研究費、スペースを大学執行部が提供し、独自の研究を奨励する他、先端融合部門の教員との共同研究の機会を与える。学長、役員会が中心となり、学外ポストへの挑戦のノウハウや競争的資金獲得の手だてを伝授する。本プログラムの中期（3年後）と終了時に研究能力、教育能力、マネジメント能力の評価結果を基に審査し、テニユア・ポストとして 2 名の准教授採用を予定し、本事業進行中にテニユアのポストを得る可能性も視野に入れる。

1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	b	a	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

優秀なテニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を採用・育成し、ライフイベントに対する施策を実施したことは評価できる。今後は、年間の新規採用教員数の推移を踏まえて TT 若手を採用し、自機関のテニユア職への採用率を高めるテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）の継続・定着を期待する。

- ・**目標達成度**：女性研究者を 6 割採用するという意欲的な目標を達成すること及び採択条件の一つである「プロジェクト終了時まで、特任助教をサポートするアカデミックアシスタント（特任リサーチフェロー）を対象としたテニユア・トラックの方策を立てること」を実現するための施策を実施することが必要である。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：9 名の TT 若手のうち 2 名が大型外部資金を獲得するなど優秀な若手研究者を採用・育成していることは評価できる。今後は、テニユア審査の基準や方法・手順などを TT 若手の採用時に開示し透明性を高めることを期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：特任リサーチフェローに対するキャリアパス支援の取組は評価できる。しかし、結果として多くの特任リサーチフェローが他機関の任期付研究員となっており、実施期間終了後の TT 制継続において、特任リサーチフェローの更なるキャリアアップ施策の立案とその実施を期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：TT 若手に特任リサーチフェローや技術支援員を配置するなどの TT 若手の自立性を維持しつつ、研究支援を強化する取組及び育児と研究教育活動の両立支援のための宿舎や研究補助者配置等のライフイベントへの配慮を行ったことは評価できる。今後は、本プロジェクトの実施による課題を踏まえ、よりの確な PDCA サイクルの活用を期待する。
- **実施期間終了後における取組**：助教の新規採用は TT 制での公募・採用を原則とし、さらに准教授から教授への昇進についても TT 制とする検討を開始したことは評価できる。今後は、本プロジェクトの成果と課題を反映した取組が実施されることを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果を反映したいくつかの取組はなされているが、外国籍研究者の応募・採用の増加及び自機関のテニユアポストに採用する比率の向上についての対応を検討し、実施期間終了後に継続・実施する TT 制に活かすことが必要である。